

Japanese Association of Trombonists

JAT NEWS

第 52 号

日本トロンボーン協会会報 2000.6 発行

事務局: 〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14MBS音羽ビル5F プロアルテムジク内 tel.03-3943-6677 fax.03-3943-6659
郵便振込: 日本トロンボーン協会事務局 東京 9-175867

第4回トロンボーンアカデミー&フェスティバル報告

去る3月18日、19日、20日の三日間にわたり北区滝野川会館において第四回トロンボーンアカデミー&フェスティバルが開催されました。地元北区の小学生から北海道在住の社会人まで、全国からさまざまな世代の受講生に集まいただきました。今年は各講座を複数の講師が受け持つことで、時間的に十分に楽器を吹くばかりでなく、皆さんの技術上の問題点や疑問も解決できたのではないかと思います。最終日の発表会には、この講習ではじめて楽器を持ったという小学生や引率の先生が「もののけ姫」を演奏し大きな拍手を浴びていました。初心者の皆さんにもトロンボーンアンサンブルの楽しさを体験していただけたことは何よりうれしいことでした。また上級者クラスは難しいソロ曲を堂々と発表し、年々確実にレベルが上がっていることを感じさせてくれました。

19日にはフェスティバルのイベント「トロンボーン・フェスタ」が開催され、日本現代音楽協会の協力で特に募集したトロンボーンのための新作が発表されました。パフォーマンス性の高い楽しいアンサンブルから超絶技巧の前衛作品まで、バラエティに富んだプログラムで、ひごろトロンボーンになじみのない一般の聴衆もおおいに楽しめる内容でした。副会長の神谷 敏氏をはじめとするソリストはもちろん、アンサンブルで出演した音大の学生やアマチュア代表シンドラー・トロンボーンカルテットの皆さんも難しい新曲に熱心に取り組み、満員の会場はたいへんな熱気に包まれました。

発表会のあとの「お別れパーティー」では受講生のアンサンブルはもちろん、ジャズの西山先生のアドリブや箱山先生カルテットによる演歌シリーズなどおおいに盛り上がり、世代や立場がいろいろでも「音楽」という共通項を持つことでこんなに楽しい時間がすごせるということを再認識しました。(協会主催の懇親会は定期的に催されています。次回をどうぞお楽しみに。)

西暦2001年のトロンボーンアカデミー&フェスティバルはトランベッコ協会、ホルン協会、ユーホ・テューバ協

会共催の「日本プラス・フェスティバル」の一環として開催されます。詳細が決まりしだい会報でお知らせいたしますのでお見逃し無く。最後にご協力いただいた北区文化振興財団、北区教育委員会、協賛各社の皆様に協会を代表し改めて御礼申し上げます。

第四回トロンボーンアカデミー&フェスティバル

実行委員長 村田 厚生

2000年3月18日～20日 北区滝野川会館

主催: 日本トロンボーン協会、財団法人 北区文化振興財団

共催: 日本現代音楽協会

後援: 東京都北区教育委員会

協賛: 呉田賢易、下倉楽器、全音楽譜出版、ダク、ノナカ、野中賢易、ピュッフェ・クラボン、プリマ楽器、山野楽器、ヤマハ、ラ・ボザウネの各社

マネジメント: プロアルテムジク



トロンボーンフェスタの出演者
左から 神谷 敏 大内邦靖 加藤直明

第4回トロンボーンアカデミーに参加して・・・

アカデミーの参加は今回が初めてです。

本番があったため初日は出られず、2日目からの参加だったのですが参加者は、特に社会人ではオーケストラに所属されている方が多くて、吹奏楽の経験しかなかった私としては、とても新鮮でした。

オケスタやアンサンブルに取り組む機会がほとんどなかったため、この2日間は大変有意義でした。

これまでの練習も充分楽しんでやってきたつもりだったのですが、もっともっと楽しめる切り口が見つかった気がします。

我流で練習してきた期間が長かった分、こうした場でレベルの高い演奏を生で聴くことができたことは大変刺激になりました。

また、日頃吹いている曲も、持っている仕事・勉強して

いることも全く違う人たちがばかりなのに、「トロンボーンが大好き」という共通項だけで親しくお話ができるというのはトロンボーン吹きの特技でしょうか。

みなさんの趣味も多彩で、楽器を片付けてからも楽しい時間を過ごすことができました。

今回アカデミーで知り合った方々とは「また来年ね」なんて言いながらお別れしましたが、次の機会がもっと早く来れば良いなと思いました。

ご指導いただいた諸先生方、運営をされた協会のみなさまに感謝します。

ありがとうございました。

今後ともよろしくお願いたします。

NTT東日本東京吹奏楽団 鎌倉 信子



ゲスト講師のビリーロビンソン氏と昨年のトロンボーンコンペティション優勝者でゲスト演奏をした木下靖子さん（打ち上げレセプションにて）

お知らせ

トロンボーン協会のホームページとメールアドレスが新しくなりました。

メールアドレス：jat@viola.ocn.ne.jp

ホームページ：<http://www3.ocn.ne.jp/~jat/>

イベントのお知らせ、入会案内など詳しく掲載しています。

お問い合わせや会員の方の住所変更なども気軽に上記アドレスへ・・・

第2回日本ジュニア管打楽器コンクール

●実施部門 1. 小・中学生コース/2. 高校生コース/3. 大学・一般コース(20歳まで)

●実施楽器 フルート、トロンボーン、ホルン ●参加費用 1. 小・中学生コース5,000円 2. 高校生コース8,000円 3. 大学・一般コース 12,000円

●選考日程

・予選テープ審査会 2001年2月24日(土) アビラックセンター ・本選考会 2001年3月18日(日) パリオホール

●選考方法 カセットまたはMDテープによる予選選考を経て、本選考会にて入賞を決定いたします。

【お問い合わせ先】

日本管打・吹奏楽学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-4 (TEL03-3818-4050/FAX03-3816-6712)

URL <http://www.basj.or.jp> E-mail info@basj.or.jp

第14回日本トロンボーン協会 1999年度総会報告

[1998年度事業報告]

1) 常任理事会 '99.4/15, 5/19, 6/9, 7/14, 9/17, 10/20, 11/17, 12/8, '00.1/31, 2/26, 3/10 計11回

2) 協会主催行事

◆第6回トロンボーンコンペティション<独奏部門>

1999年11月14日 洗足学園大学満の口キャンパス
協賛: 眞田貿易㈱/榊セントラル楽器/榊ダク/榊ネロ楽器/野中貿易㈱/ビュッフェ・クランボン㈱/榊山野楽器/ヤマハ㈱/榊ヤマミュージック横浜

協力: 洗足学園大学/プロ アルテ ムジケ/ハラヤミュージックエンタープライズ

◆第4回トロンボーン・アカデミー&フェスティバル

2000年3月18, 19, 20日 北区滝野川会館

主催: 日本トロンボーン協会/財北区文化振興財団

後援: 東京都北区教育委員会

協賛: 榊河合楽器製作所/榊グローバル/眞田貿易㈱/榊下倉楽器/榊全音楽譜出版社/榊ダク/榊ノナカ/ビュッフェ・クランボン㈱/榊プリマ楽器/榊山野楽器/ヤマハ㈱/ラ・ボザウネ

マネジメント: プロ アルテ ムジケ

◆トロンボーン・フェスタ

2000年3月19日 北区滝野川会館

主催: 日本現代音楽協会/日本トロンボーン協会/財北区文化振興財団

◆JAT夏の懇親会

1999年7月18日 江東区総合区民センター公会堂

3) 後援および協力事業

1999年4月5日「トロンボーン&トランペット現代奏法レクチャー」/TAスタジオ

1999年4月6日ムジカムンダーナ トロンボーン アンサンブル 第6回定期演奏会/練馬文化センター 小ホール

1999年5月18日 東京トロンボーンソリストン スペシャルコンサート/石橋メモリアルホール

1999年9月7日 荻野 昇・トロンボーンリサイタル/
1999年11月9日 スローカー トロンボーン 四重奏団・結成25周年記念公園/津田ホール

1999年11月15日 スローカー トロンボーン 四重奏団・結成25周年記念公園/港南区民文化センター「ひまわりの郷」

1999年11月28日 アンサンブルテープ・第3回演奏会/川口リリア音楽ホール

2000年1月16日 トロンボーンザ・第20回記念演奏会/石橋メモリアルホール

2000年2月24日 第9回東京音楽大学トロンボーンアンサンブル演奏会/彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

4) 協会誌発行第48号、第49号、第50号、第51号

5) 2000年度事業計画

00.7 JAT 夏季懇親会

00.11 第7回トロンボーンコンペティション

01.3 第5回トロンボーン・アカデミー&フェスティバル

6) 日本トロンボーン協会 2000年度 役員

会長 : 三輪 純生 副会長 : 神谷 敏、菟田憲一

相談役 : 伊藤 清、春山 和雄

理事長 : 今井 順夫 副理事長 : 箱山芳樹、角田健一

常任理事: 伊波 睦、井上順平、荻野 昇、亀谷彰一、

岸名和巳、郡恭一郎、白石直之、

首藤健一、関根一臣、中村博邦、萩谷克己、

原田 靖、細谷道生、牧瀬顕利、

松本 照、村上準一郎、村田厚生、

山田裕治、和田美亀雄

事務局 : 志村 努(事務局長)

顧問 : 河辺浩市、関根五郎、前田 保、佐藤菊夫、

永濱幸雄、福田日出彦、森下元康

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,089,993	会報印刷費	236,250
会費	741,000	会報制作費	240,000
雑収入	7,514	会報発送費	180,705
		通信費	79,840
		事務消耗品	30,285
		雑給	18,000
		雑費	25,305
		事務所費	0
		理事会、総会会場費	53,800
		慶弔費	0
アカデミー(*1)	0	アカデミー(*1)	90,000
コンペティション(*2)	0	コンペティション(*2)	0
懇親会	43,500	懇親会	36,106
前年度未収金	0	前年度未払い金	350,085
		次年度繰越金	541,631
合計	1,882,007	合計	1,882,007

今年度計 792,014

今年度計 1,340,376

今年度収支 -548,362

第3回トロンボーン・アカデミー&フェスティバル(99/3/19-21)精算書

収入の部		支出の部	
受講料5000×10	50,000	講師料	230,000
受講料10000×6	60,000	出演料	668,008
受講料15000×5	75,000	印刷チラシ	136,500
受講料20000×8	160,000	印刷デザイン	42,000
一般・学生6000×19	114,000	プログラム	157,500
一般・学生12000×7	84,000	チケット手数料	502
一般・学生18000×2	36,000	DM、郵送代	28,600
一般・学生24000×1	24,000	マネジメント料	400,000
聴講	6,000	著作権料	57,480
欠席者の手数料	6,000		
協賛金	676,760		
チケット売上3/19	56,000		
チケット売上3/20	26,000		
チケット売上3/21	40,000		
合計	1,413,760	合計	1,720,590

収支差額 -306,830

第20回 志賀高原音楽祭サマーミュージックキャンプ

開催期日：8/15～18

問い合わせ：実行委員長：今井 順夫 〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生6-11-10

TEL 044-988-5855 FAX 044-989-6628 E-mail: yorioi@olive.ocn.ne.jp

044-988-5855 4 044-989-6628

独断と偏見のドイツ管入門 その1

東京佼成ウインドオーケストラ 萩谷克己

最近、ドイツ管なるものが隔れた流行となっています。私自身、ドイツ管と呼ばれているモデルを使っていますので私の考えを書いてみました。

What's ドイツ管

- 1: ドイツ製である。
- 2: ドイツの伝統的なデザインである。
- 3: 特定の仕様の楽器。

さて、

1: のドイツ製であるという事ですが、最近ポピュラーになってきたスローカー・モデルは立派なドイツのマイスターが作った物です。またアム・ラインというメーカーがジャズ・モデルを中心に優れた楽器をつくっています。カワイのテナー・バスはB&Sという立派なドイツのメーカーです。レッツェがモデル42Bという物を作りましたが、読んで字のごとく、バックの42Bのコピーモデルです。ヒュッテルという音あつた楽器もドイツ製という刻印がありました。これらはドイツ管でしょうか？

2: のドイツの伝統的なデザインというのはヤマハのウィンナ・モデル、戦前の海軍仕様の日管、中国製、ソ連製、チェコのリグナトーン（知っている人はヒュッテル同様年がばれますから知らん顔しましょう。）の楽器に見られます。そうするとクルスベのジャズ・モデルはドイツ管ではなくなってしまいますね。

3: 特定の仕様についてですが、例えば大部分のドイツの伝統的なモデルはデュアル・ボア（スライドの上下の太さが違う。要するに音、空気がスムーズに各大されるように順番に太くなっている設計です。それをいうのであれば、ヤマハのインベリアル・モデル、バックの16、ホルトンの

のフリードマン・モデルもデュアルです。これらはドイツ管でしょうか？

ドイツ管の音色とは？

- 1: 重厚である。
 - 2: まったりとしてそれでいて輝きがある。?????
 - 3:
 - 4:
 - 5:
- 皆さん好きな事書いて！！



私はよく「なぜレッツェを使っているのですか？」と聞かれます。私の答えは簡単です。「細管の音色をアコースティックで出せるから」同じ質問に別の答え方をした事があります。「ブライトなサウンドが欲しいから」そうしたら質問者は「えーっドイツ管はダークなサウンドじゃないの？」と聞き返しました

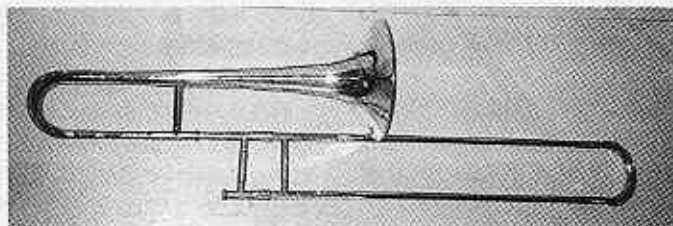
私は「他は知らない。自分ののはブライト」と答えました。

ドイツ管は吹きにくい。

私が良く聞かれるのは「吹くのがキツイでしょう」とかソロの後「あのキツイ楽器でよく持ちますね？」

私の答えは「東京佼成ウインドオーケストラは吹きっぱなしの曲が多いんです。パーズスの「アルバマー序曲」なんて4ページ吹きっぱなしでしかも唾がプチプチいってるのに抜くことも出来ない。それがレッツェだと楽に鳴らし、唾はロング・ウォーター・キのおかげでいつでも抜ける。最高ですよ。」「??????」

What's ドイツ管————以下次号



J・C・Penzel 1860(780)写真提供 多胡和雄

ドイツトロンボーンの名工 多湖 和男

前回に引き続き、トロンボーン奏者が担当するオペラの中での特殊金管楽器：チンバツソとバストランベットのついて今回取り上げます。

● Cimbasso

ウィーンのチューバ奏者ゲアハルト・ツェヒマイスター氏のレポートによりますと、ヴェルディやプッチーニはワーグナーがコントラバストランボーンを用いて作曲した「ニーベルングの指輪」に影響を受け、自身のオペラにおいても4本トロンボーン編成を取り入れ、トロンボーンパートの低音域を拡大しました。その為下吹きのトロンボーン奏者が今まで使用していたF管3バルブ式バストランボーン（あるいは、下吹き用の太いボアを持つ、当時「コントラトロンボーン」と呼ばれていたB管バルブ式トロンボーン）は低音域の拡大を求められ、バルブをとり付け加えたり、奏者がベダルトーン音域まで利用することで対処していたのではないかと推測しています。そして、今日チンバツソと呼ばれ製作されている楽器は、そのF管バルブ式バストランボーンから発展・改良されたものであると報告しています。また、ワーグナーの影響を受ける前に（オペラ「運命の力」などで）ヴェルディが指定したチンバツソはテナーチューバ的な楽器ではないかとも報告しています。

チンバツソの起源（19世紀以降における）については諸説あり、またオペラ「トゥーランドット」の初演時にはチューバで代用されるなど（このオペラでの作曲家が指定した楽器はトロンボーン・コントラバツソ）、それ以後ヴェルディやプッチーニの一番下のトロンボーン・パート（チンバツソと指定してあるパート、ワーグナーの影響を受けてからの4本トロンボーン編成における一番下のトロンボーン・パート及びトロンボーン・バツソまたはトロンボーン・コントラバツソと指定されているもの）は、チューバ奏者がチューバで代用することが世界的に多くなりました。また、ワーグナーの「指輪」のためや当時の軍楽隊のためのB管バルブ式コントラバストランボーンとの混合や、バルブ式トロンボーンが廃れてくるなどの理由により、時代とともにこの楽器の定義とオーケストラにおけるこのパートを担当する位置（バストランボーン奏者が吹くのかチューバ奏者なのか）が曖昧になってゆきます。そして、楽器だけが使用する奏者のニーズに合わせて改良され、今日に至っています。

現在ヴェルディやプッチーニのオペラにおけるチンバツソやトロンボーン4本編成の一番下のトロンボーン・パートは、世界的にチューバ奏者が担当しています。その為楽器製作者の多くは、チンバツソのスタンダードなセッティングをチューバ奏者のためにしているのが現状です。日本

で流通しているドイツのメーカーでチンバツソ（メーカーによっては、イタリアン・チューバ）を製作しているのは、ルドルフ・マイネル、マイネル・ウェストン、M&H・タイン、ユルゲン・フォークトなどです。その中でバストランボーン奏者のためのセッティングも得意としているのはタイン社です。



● Basstrompete

バストランベットの歴史もその定義も曖昧で、複雑な発展をしています。（詳しくは、バイパーズ224号・2000年4月号をお読み下さい。）要は、全てのこと（音色・響きの理念、音域や楽器の調子、トランペット奏者が吹くのかトロンボーン奏者なのかなど）が曖昧なままに、バストランベットの担当する奏者と製作者の間だけで楽器の改良がなされてきたということです。その結果、トランペット奏者用とトロンボーン奏者用の2つのタイプの楽器が混在することになりました。ただ第二次大戦以降、世界的にバストランベットのトロンボーン奏者が担当するようになります。その為、楽器のコンセプト・キャラクターは長管トランベットの的なものが減少し、テナーホルンあるいはバルブトロンボーン的傾向が強くなり、楽器自体も大型になっていきます。

現在のドイツでは、まだたくさんのマイスター達がバストランベットの製作をしています。調子もB・C・D/Esのコンビネーション・Fと様々です。トランペット製作を得意とするマイスターの楽器は、トランペット奏者用の楽器から発展していると思います。また、トロンボーン（あるいは低

百合管楽器)製作を得意とするマイスターの楽器は、そのほとんどがトロンボーン奏者のためのセッティングで、前者のものより楽器が大きいです。

他にバストランベットの、マウスピースの選択・セッティングも悩みどころです。元がどのような楽器(アルトホルンやテナーホルンをトランペット巻きにしたもの、長管トランペットをボアアップしたもの、ナチュラルバスなど)から発展したのかにより、マウスピースの全長やカップ、スロート、バックボアの長さの割合などが全然変わってきます。購入する際には、必ずその製作者に楽器のコンセプトを聞き、どのようなセッティングのマウスピースがよいかアドバイスしてもらおうことをお奨めします。また、バストランベットの量産品ではなく、そのほとんどがパーソナルなユーザーのための楽器であるため、非常にこだわりを持つ良心的な製作者ならば、ユーザーの注文を受けた際に「あなたはどのようなマウスピースをお使いですか」と普通は聞くとおもいます。



Besson in the 1930s
"Besson Trumpet"
by Michael Gasser

Ed. Kruspe 1930のカタログより【資料提供 多胡和雄】

雄勝ブラスウィーク2000

●日程：2000年8月17日(木)～20日(日)

*17夕食後レッスン開始/20午後解散

●会場：雄勝町公民館 〒986-1333宮城県雄勝郡雄勝町大字雄勝字寺4-4 TEL 0225-57-3052 FAX 0225-57-3089
雄勝小学校 ほか

*JR石巻駅より車で40分(送迎バス運行予定)

募集定員：計105名(中学生以上であればどなたでも結構です。)

トランペットコース30名(講師：佐藤友紀・田中敏雄)

ホルンコース30名(講師：大森哲史・澤敦)

トロンボーンコース15名(講師：若狭和良)

ユーフォニアムコース15名(講師：牛渡克之)

チューバコース15名(講師：渡辺功)

●参加費：35,000円(宿泊・保険料含む)

*現地までの交通費は含まない

●お問い合わせ・要項請求：雄勝町公民館 〒986-13宮城県雄勝町大字雄勝字寺4-4

TEL/0225-57-3052 FAX/0225-57-3089

雄勝ブラスウィーク2000 事務局 牛渡克之
〒332-0031 埼玉県川口市青木1-1-22-301

TEL/FAX/048-252-8082 携帯090-4436-4937

e-mail:ushishi@zd5.so-net.ne.jp

●ホームページ：<http://www10.u-page.so-net.ne.jp/zd5/ushishi/ogatsu/>

草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

2000年8月17日から8月30日まで群馬県草津町において「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」が開催されます。アカデミーでは、マスタークラス講師として海外から一流音楽家が招かれ、連日レッスンやアンサンブルが行われます。また「草津音楽の森コンサートホール」では、講師陣によるソロ・リサイタルやアンサンブルの演奏会が毎日行われるほか、受講生によるスチューデントコンサートやポピュラーコンサートなども企画されています。

ブラスアンサンブル・コンサート 8月30日 16:00

出演：マスタークラス講師(下記参照)、北村 源三、伊藤 清他

マスタークラス

講師：トランペット：ハンス・ベーター・シュー(ウィーンフィル首席)

ホルン：ラース・ミヒヤエル・シュトランスキー(ウィーンフィル首席)

トロンボーン：カール・ヤイトラー(ウィーンフィル、バストランボーン)

定員：各クラス10～12名まで、多数の場合は現地選考

アカデミー、フェスティバルに関する詳しい情報とお問い合わせは、草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルホームページ

<http://www02.so-net.ne.jp/~kusatsu/>

財団法人 関信越音楽協会 草津夏期国際音楽アカデミー事務局

〒150 東京都渋谷区元代々木町 14-3 和興ビル 2F

カメラータトウキョウ内

TEL 03-5790-5561 FAX 03-5790-5562

INFORMATION

情報

インターナショナルプラスフェスティバル2001

日時：2001年7月20・21・22日

場所：洗足学園大学大学院 溝ノロキャンパス

主催：日本トランペット協会・日本ホルン協会・日本トロンボーン協会・
日本ユーフォニアム・テューバ協会

詳細は後日発表。



プラスサプライ 第2回定期演奏会

【日時】2000年6月26日(月) 6:30会場 7:00開演
【場所】府中の森芸術劇場 ウィーンホール
【入場料】全席自由 一般2000円 学生1500円
【プログラム】バッハ/2本のトランペットのためのアリア
ガーシュウィン/ボーギーとベス 他
【チケット取り扱い】府中の森芸術劇場チケットセンター
042-360-4044 トランペットラウンジ 046-266-1616
【問い合わせ】プラスサプライ 櫻井広介 045-401-6639

《チャリティー》 ソロ&アンサンブル トロンボーンコンサート

2000年 8月12日(土) 午後2時開演
鹿児島市民文化ホール第2
入場料 一般2,000円 学生以下1,000円

プログラム サン・サーンス/カヴァティーナ
アルプレヒツベルガー/アルトトロンボーン
協奏曲

バッハ/フーガ ト短調
モンティ/チャルダッシュ
カーマイケル/スターダスト

出演者 上赤竜次 川口智洋 岸良開城 小坂達也
原尚二 三窪毅 中山詩子(ピアノ)
お問い合わせ 原尚二 TEL&FAX 099-265-8002

第17回日本管打楽器コンクール トロンボーン部門開催のお知らせ

【日時】

第1次予選：平成12年11月13日(月)～14日(火)
開始時間/10:00～ 会場/パリオホール

第2次予選：平成12年11月17日(金)
開始時間/10:00～ 会場/パリオホール

【本選】平成12年11月19日(日)
開始時間/16:00～ 会場/パリオホール

審査員：委員長 永濱 幸雄 委員 伊藤 清・
白石 直之・箱山 芳樹・春山 和雄・三輪 純生・
Michel Becquet【敬称略・五十音順】

募集人数：150名

参加料：30,000円

申込先：〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-4
アピラック・ミュージック・コミュニティセンター内
財団法人 日本音楽教育文化振興会

日本管打楽器コンクール運営委員会 TEL03-3816-6711

受付期間：2000年(平成12年)7月15日(土)～
9月15日(金・祝)(9月15日の消印有効)

定員になり次第締め切ります。

◆第1次予選【課題曲】R. Boutry: Concerto pour
Trombone et Piano (出版社: Alphonse Leduc)

※ Adagio から Presto の12小節目まではカット。

◆第2次予選【課題曲】F. David: Concertino Op. 4

(全楽章)(出版社の指定無し)

◆本選【課題曲】K. Serocke: Konzert für Posaune und
Orchester (出版社の指定無し)

【注】第1次予選、第2次予選、本選とも暗譜で演奏の

こと。第1次予選、第2次予選はブラインド審査とする。